

研究 No. (記載不要)	17-文学-5
------------------	---------

平成17年度 特別研究費 研究成果の概要

研究名	大気汚染公害としての喘息				
配分を受けた特別研究費	文化政策学部長特別研究費 1、480 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の場合の分担
	文化政策	文化政策	教授	森 俊太	
共同研究者					
発表の方法	1 紀 要 静岡文化芸術大学 研究紀要		号 数	第 7 号 (2007 年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日	平成 年 月 日	
	3 その他 (著書)		発行日	平成 年 月 日 発行	

(研究の目的等)

日本における「大気汚染公害としての喘息」について、「社会問題」および「人権」の視点から研究した。「喘息」について、社会的要因と現状についての分析し、現存する施策を評価し、将来に向けてより望ましい解決法について考察した。

(研究の実施方法等)

文献調査、先行研究など

DuPuis ed., *Smoke and Mirrors: the Politics and Culture of Air Pollution* 2004年(『煙と鏡：大気汚染の政治と文化』)、永井他『環境再生：川崎から公害地位の再生を考える』2002年、宮本憲一『維持可能な社会に向かって：公害は終わっていない』2006年などの内外の文献から、大気汚染を含む公害一般および環境問題について、経緯や現状についての知見を得た。

国際比較データなど

- ・ アメリカ社会学会にて参加した研究部会での発表、面談した研究者からの情報提供、そして、カリフォルニア州内の図書館での文献調査により、アメリカ合衆国、特にカリフォルニア州の大気汚染対策についての最新の情報を得たり、環境問題の研究動向について知ることが出来た。
- ・ イタリアの大学や研究機関での文献調査や、研究者の協力により、イタリア北部のポー河流域の自然保護計画や、ボローニャ市の都市再生計画について調査することが出来た。
- ・ 日本においては、川崎市沿岸部の現地調査や、関係者との情報交換、文献調査により、主に大気汚染公害に関する訴訟について調査した。

(得られた成果)

当初の研究テーマであった社会問題としての「大気汚染公害としての喘息」について調べていくと、どうしても「環境」問題全般について考察する必要性が明らかになり、研究対象領域が拡大した。以下に喘息、大気汚染、公害、環境に関して共通する主な調査結果を記す。

1. 日本における環境対策の技術は進歩し、政策面でも整備が進んだ。全国的に見ると大気の状態は改善してきたが、自動車の増加により交通量は増加しており、交通量が多い道路付近に居住する住民を中心に、喘息患者は増加している。つまり、環境技術の進歩や環境ビジネスの進展は著しいが、その限界も明らかになりつつある。都市と地方の関係や、維持可能な経済活動の推進など、社会全体の仕組みを変革していかない限り、喘息を含む公害を生み出す社会的土壌は根本的には無くならない。
2. 社会史、または言説研究の立場からの知見として、社会問題としての「公害」は、1980年代中ごろから、政府、企業、メディアでは言及されなくなり、かわって「環境問題」という言葉が使われるようになった。この変容の経緯について詳しく調査することにより、「公害」と「環境」に関わる具体的な社会運動や組織的な利害関係を解明することが出来た。
3. 他国の喘息、大気汚染、公害、環境に関する事例を調査することにより、日本における同様な問題の解決について、特にEU諸国の地域環境政策などの事例から、様々な示唆を得ることが出来た。また、喫煙公害や、アスベスト対策など、専門家や官僚組織が他国の事例について十分な情報収集と分析を欠いたとしか考えられない問題も明らかになった。しかし、各国、各地域において歴史的社会的な事情や経済発展の状況が異なること、また、環境問題は地球規模の問題であることなどから、これらのテーマについての単純な国際比較は難しいことが理解できた。